

< 第 19 節終了時点順位表 >

	チーム名	勝	負	分	得	失	差	勝点
1	駒澤大学	11	3	5	45	16	+29	38
2	法政大学	11	3	5	39	23	+16	38
3	筑波大学	9	4	6	49	24	+25	33
4	国土館大学	8	5	6	24	26	-2	30
5	順天堂大学	7	7	5	32	30	+2	26
6	中央大学	7	8	4	32	33	-1	25
7	流通経済大学	6	7	6	21	28	-7	24
8	東京農業大学	6	7	6	18	31	-13	24
9	明治大学	5	8	6	22	27	-5	21
10	東京学芸大学	6	10	3	27	34	-7	21
11	亜細亜大学	5	9	5	16	28	-12	20
12	日本大学	2	12	5	20	44	-24	11

国土館大学はリーグ戦後に勝ち点 - 7 とする

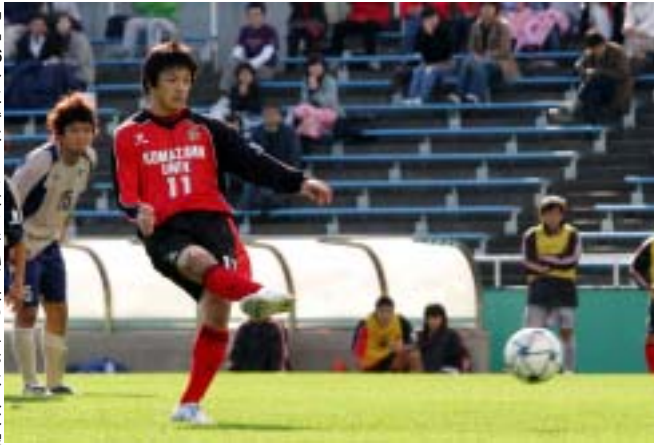
得点ランキング

- 13 ゴール 井上 平(法大)
- 10 ゴール 原 一樹(駒大)
- 10 ゴール 市川雅彦(法大)
- 10 ゴール 藤本淳吾(筑波大)
- 9 ゴール 赤嶺真吾(駒大)
- 9 ゴール 宮崎大志郎(駒大)

アシストランキング

- 12 アシスト 藤本淳吾(筑波大)
- 6 アシスト 石川高大(東農大)
- 5 アシスト 赤嶺真吾(駒大)
- 巻 佑樹(駒大)
- 島田祐輝(駒大)
- 高野耕平(東学大)
- 小林優希(中大)

石川 86分に得たPKを落ち着いて決める原、本人は「凄く緊張した」と言う
石川は相手の11番がスリッドがあるからまずそこをケアすることを考えていたと言うように、東学大の金澤にプレスをかける筑波(右)
下は先発出場した印出、55分、放ったシュートはゴールに突き刺さるも、トラップが1下の判定でノーゴール



Jr. リーグ前・後期連覇!



最優秀選手賞に輝いた高崎 (川崎篤彦撮影)

前期・後期共に制覇した Jr. リーグ。メンバーが固定されない中、リーグ戦に望みリーグ戦前期・後期を制覇したことは見事である。Jr. リーグの面白い所はメンバー全員が最後まであきらめずにボールを追っていく所である。トップに合流するには必ず通る門が Jr. リーグ。コーチからの激しい檄がいつも試合中グラウンドに響いている。選手達はその檄を紳士に受け止め自分達のプレーを改善する。だがトップに出られない選手達でもそれなりの実力を持っている。しかし、選手達はそのプライドを捨ててコーチの要求に答える。このサッカーに取り組む姿勢は選手達の後の財産になる事は間違いない。この姿勢が形として表れたのが前期・後期制覇である。この姿勢を切らすことなくひたすら努力してもらい、選手達の日でも早いトップでの活躍が見たくてたまらない。

高崎寛之コメント

「最優秀選手賞はチームみんなのおかげで(前期から)連続で受賞できた。こういう賞をもらい、評価はされているということで自信がつく。しかし、最終目標は Jr. リーグではないのでこれからも頑張っていきたい」

< 個人賞 >

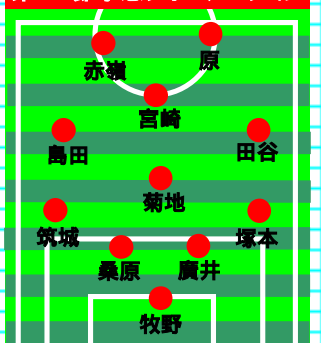
- 最優秀選手賞 高崎寛之(駒大)
- ベストGK賞 山内達夫(駒大)
- ベストDF賞 石井晃一(駒大)
- アシスト王 前田亮(早大)
- 得点王 島村 毅(早大)

PREVIEW

練習試合でMF鈴木(4年)が右足を怪我し全治6週間と診断された。鈴木復帰がチームにどう影響するのか、逆にこれをチャンスと捉え、中盤の選手が奮闘してくれることに期待したい。鈴木に任せられることの多いトップ下は、第19節東学大戦では宮崎を配置した秋田監督。左サイドは東学大戦、途中で投入されサイド攻撃を活性化させた島田の先発も考えらる。第20節順大戦はどのような布陣で挑むのだろうか。

現在2位の法大が追いつけてきている今、負けは許されない。法大との直接対決に向けて、確実に勝ち点3を取りたいところだ。

第20節予想フォーメーション



< 前期の結果 >

駒大 2 - 2 順大
前半で2点リードするも、後半はまるで違うチームのようになり、法大に追いつかれ引き分けに終わっている。

駒高ベスト4で散る

第84回全国高校サッカー選手権大会 東京都予選Aブロック・準決勝

2005年11月13日 西が丘サッカー場
駒澤大学高校 1 - 2 修得高校
【得点】()はアシスト
【駒】22分: 上野
【修】26分: 小幡、30分: 小幡(小澤)
【メンバー】
GK 吉野佳卓 / DF 笠井勇太、中山友規、石井源己 (44分 小谷松邦明)、内田雄大 (68分 森谷直) / MF 高澤純平、山崎健太、佐藤隆法、上野貴亮 (68分 斉藤優) / FW 藤本智春 (75分 加藤太一)、下村幸平
【SUB】
GK 青木啓之 / DF 加藤才知、桑島隆太、菊地圭介 / FW 金井貴之



近年、駒大サッカー部では赤尾・小椋などの駒大高校出身選手が活躍している。その赤尾や小椋も高校時代に目指した選手権への出場権を懸けて、今年も駒高生が準決勝に挑んだ。しかし、全国の夢は叶わずベスト4で姿を消した。駒高は、両サイドを使った効果的な攻撃でゲームを組み立てる。21分にゴール前の混戦からこぼれたボールを上野が押し込み先制。1点を取るまでは良かったと、大野監督の言葉通り、駒高の攻撃は噛み合っていた。だが、修徳に1点返されたことにより、一気に流れは修徳に傾き30分またしても失点。後半78分にPKを得るも、このチャンスをGKに阻まれ全国への夢は散った。
2失点共カウンターからの失点。「攻撃時の守備が弱点と言われていた」と上野。ボールを奪われてからゴール前にボールを運ばれるのがあまりにも簡単だった。弱点を突かれての敗戦。「気持ちを含めて人間的な部分で負けてしまったのかも知れない」と話す大野監督。その少しの気持ちの差が勝負の行方を左右した。この結果で3年生は引退。「悔いが残ってしまったので、これからもサッカーを続けていきたい」(吉野)と悔し涙を流した。この悔しさがまた彼らを成長させる。ここはまだ、彼らのサッカー人生の通過点でしかない。(伊藤優香)